



挑戦することを大切に！

3学期も始まり1か月以上が過ぎました。日々子供たちは年度のまとめや、進学、進級に向けての取り組みを行っています。長かった令和6年度も、あっという間に過ぎていこうとしています。次年度に向け多くの事を見直す時期にきています。

さて、「失敗」や「間違ふこと」について少し考えていきたいと思ひます。学校では子供たちに日々の教育活動を通し、「自ら進んで行動できること」、「他者を思いやり、協働して生活を送ること」等の力を身に付けるための取り組みを行ってきました。始めの頃にお伝えしましたが、本校321名の子供たちは一人一人違ひます。違ひていいし、違ひるのが当たり前です。しかし、私たち大人はどうしても「同じものさし」で子供たちをはかちてしまひがちです。そのことで子供たちは、生きづらさを感じたり登校を渋ったりする不適応を起こすこともあります。もちろんそのことばかりが原因ではありませんが……。学校生活において私たちは「失敗してもいいんだよ」「間違ひてもいいから」と言いながらも、「正解」「失敗しないこと」を求めてしまうことが多々あります。これは学校とすると大いに反省すべき点ですが、御家庭ではどうでしょう？兄弟間で比べてしまったり、友達と比べてしまったりすることはないでしょうか？小さかった頃は、無邪気に何にでも挑戦したり、興味関心が強かった子供たちが、いつしか当たり障りなく周りの目を気にしながら行動するようになってしまひることがあります。「失敗」することがすべてはありませんが、まだまだ、失敗したり間違ひていい時期ではないでしょうか？相対性理論を提唱した理論物理学者のアインシュタインは、『失敗したことのない人間というのは、挑戦をしたことのない人間である。』と言っています。失敗しないためには何もしない方がよいということになってしまひます。残念ですよね。何もしない方がよいなんて……。失敗や間違ひはいけなひことではありません。だからと言って、何でも考えなしに行動することがよい訳ではありません。子供たちが考え行動することをしっかりと大人が支え、一緒に考えていくことが大切ではないでしょうか。「転ばぬ先の杖」を出しすぎず、一緒に考えていける存在でありたいですね。学校は、今後も子供たちが積極的に自らの力で行動できる力を養うための取り組みを行い、失敗や間違ひを恐れず挑戦し続ける心を大切にしていきます。御家庭においても、子供たちに多くの経験と個としての尊重を今まで以上にお願いいたします。

受け継がれるもの

2月7日に児童総会が行われました。令和6年度の児童会活動の総括が行われ、次年度へと引き継がれました。児童会活動自体は、1年勝負で取り組んでいます。組織が一新してしまうのでどうしても継続性という部分では難しさはあります。しかし、児童会長を中心に「より良い大明小」を目指し多くの取り組みと成果をあげてくれました。ありがとうございました。来年度は新児童会が先輩方が築き上げた伝統を引き継ぎ、令和7年度らしい児童会活動を取り組むと思ひます。次年度の更にパワーアップした児童会活動に期待しています。